

くたがしん

いしん

しん



つながる力で、安心と成長を

広島県共済



「相互扶助の精神」と「つながる力」で 広島のみらいを支える

「地域の役に立ちたい」「自分が生まれ育った街に恩返ししたい」
都市に人や企業が集中する一方で、こうした考えを持つ人が若い世代を中心に増えているそうです。
この国には、47もの個性的な地域があり、私たちの住む広島にも、
他にはない魅力やモノづくりの力など、大きな可能性があります。
それぞれの地域に生きる人や企業が互いに助け合い、協力すれば、
みらいはもっとオモシロく、豊かなものになるはず。
広島県共済は、困ったときにお互いが助け合うという「相互扶助の精神」をもとに、
組合員同士の「つながる力」をさらに大きく広げていきたいと思っています。
そしてそのためにも、この街が好きで、共に広島のみらいを考えてくれる、あなたの力を必要としています。

1955年。広島県生まれ。 戦後の荒廃から立ち上った 中小零細事業者を 「安心」で支えた「広島県共済」。

1955年、広島県共済は、「中小商工業者が受ける災害に対して
立ち直りする資金の一部でも供給する道を拓きたい。」との想い
のもと誕生しました。
原爆によって大きな被害を受け、戦後の混乱から少しずつ立ち
直りはじめた頃のことです。
木造トタン屋根の粗末な造りの工場が密集する中で、火災事故
は中小事業者の存亡に関わる問題でした。そんな時代背景の中、
「火災共済」は誕生し、広島復興を微力ながら支えてきました。
その後も中小企業経営者や家族、従業員のケガや病気を保障す
る「生命傷害共済」を業界に先がけて開始し、以後、時代の要請
に応えた共済を次々に提供してきました。
最近では、「高齢社会」を支えるための「シニア共済」もそのひとつ
です。広島県共済は、県内中小企業者がお互いに支え合う気持ち
を、時代に合わせた、新しいカタチにしていきます。
その精神と先取の気風は、60余年を超えた現在も、しっかりと私
たちの中に息づいています。

中小企業者のサポーターとして。 地域を支え、地域に支えられる。

現在、広島県共済の代理所は県内に約250か所、組合員数は
およそ9万5,000人、引受共済金額も7,240億円と同種組合で全
国屈指の共済組合として成長してきました。
困ったときにはお互いを助け合う、「相互扶助の精神」に基づき、
営利を目的とせず、安価な掛金と確実なお支払いを続けてきた
からこそ築けた地域との絆。
私たちはこれからも地域の中小企業者のよきサポーターであり、
万一の際のセーフティネットであり続けます。

私がいちばん大切にしていることはお客様に信頼されること。そのためお客様宛の書類は郵送ではなく、できる限り手渡しでお届けすることを自分のルールに。地域に最も近い「顔の見える共済」の実現を目指して、「いつもありがとうね」と言ってもらえる関係づくりを目指しています。記憶にも新しい「西日本豪雨災害」のときは、私の担当するお店も被災されました。自分にできることは何かを考え、迅速に共済金支払の手続きを進めました。その結果、早期に営業を再開することができ、「ありがとう」の言葉を頂いたとき、あらためてお客様の営みを支える共済の役割を実感しました。広島県下の9割が中小企業の事業者です。万一のことがあったとしても、その方々の支えとなれることを目指して、最適な「備え」をご提案していきたいと思えます。

やっているのは、こんな仕事

高い目標設定が、自分を成長させてくれることを実感。

広島県内の中小企業の皆様が安心して事業を行えるように、共済制度の普及推進に努めています。ときには代理所の方々に、いままでよりも高い目標のキャンペーンを提案することもあります。何度も断られましたがあきらめずに交渉。最後にはご了承いただき、しかも目標を大きく上回る実績を残せたときはうれしかったですね。

「信頼できる」共済のご提案がこの街の発展につながる

共済推進部 川添 可南子

わたしがツクル、ミライ

🕒 川添さんのある1日のスケジュール

- 8:10 **出社**
共済推進活動における提案準備を行います。
- 8:45 **朝礼・出発準備**
一日の行動予定やキャンペーンの実績などの情報を共有します。
- 10:00 **火災共済契約者・代理所訪問**
車で訪問。提案したい内容を事前に準備した上で訪問します。
- 12:00 **昼食**
訪問先近くのコンビニで購入し、ランチタイム。
- 13:00 **火災共済新規提案・代理所訪問**
新規提案に対してのお客様の要望の聞き取りを行います。
- 17:00 **帰社・回覧チェック、残務処理、見積書作成**
お客様からご依頼いただいた見積書などを作成。次回訪問に活かします。
- 18:00 **退社**

わたしがツクル、ミライ

カープのように地元を愛され、広島県を盛り上げたい。

業務部 業務企画課 永井 茂樹

毎日、広島県を中心とした中国5県で、共済加入者に対する優待割引サービス制度「エルフル」の提携施設の拡充や、PR誌の作成に奔走しています。

中小企業者の皆様の楽しみに関わる福利厚生制度なので、アンケート等で喜びの音がダイレクトに伝わり、やり甲斐を感じています。共済や保険は、事業者が事業の保全のために必ず利用されます。特に広島県共済は、万一のときにもすぐに加入者の顔が浮かぶほど、地域に密着。広島を愛し、困っている人の助けになりたい、地域を盛り上げたいという人はぜひ一緒に働きましょう。

やっているのは、こんな仕事

2,300を超える施設で使えるサービスの拡充とPR誌の編集。

優待割引サービス制度「エルフル」の提携施設の拡充や情報誌の編集などを行っています。特にエルフルは地域の活性化に貢献できるのでやりがいも十分。たまにはお叱りを受けることもあります。それだけ関心を持って見ていただいているのだと思い、日々、手応えを感じています。

🕒 永井さんのある1日のスケジュール

- 8:30 **出社**
自転車通勤で運動不足を解消。メールチェックで1日がスタート。
- 8:45 **ミーティング**
先週の活動報告、今週の活動予定をチームで共有します。
- 9:00 **関係団体訪問**
エルフルカードの取組状況を説明。今後の協力依頼の交渉をします。
- 12:00 **昼食**
- 13:00 **関係団体訪問**
訪問の中で季刊誌エルフルなどの情報収集をし、企画・検討します。
- 16:30 **帰社**
日報や見積書を作成。職員からの業務報告、残務処理を行います。
- 18:00 **退社**
帰宅後はお酒を飲みながらご飯を食べたり、ニュースをチェックしたりします。

📖 TOPICS

「エルフル」のアプリ化など、新たな取り組みを次々に。

広島県を中心に約2,300か所のレジャー施設や飲食店、宿泊施設等で優待サービスが受けられる福利厚生サービス「エルフル」をスマートフォンでカンタンに使えるようにアプリ化。広島県共済にご加入いただいた企業の従業員や家族の福利厚生に役立つだけでなく、地域の活性化にも貢献。時代に合わせて「相互扶助の精神」をどんどん進化させていくことで、新たな価値を生み出しています。





わたしがツクル、ミライ

「自分がわからなかったこと」は「お客様もわからない」を意識して。

業務部 管理課 俵 早紀

社会人になって一年。私にはここで学ぶべきことがたくさんあります。そんな社会に出て間もない私だからこそできること、それはお客様の「わからない」という気持ちを理解することです。例えば「被災者」といった私たちにとっては当たり前の言葉も、一般のお客様にとっては聞きなれない…。私がわからなかった時を思い出しながら、専門用語を使わないようわかりやすく説明します。実際に対応したお客様から感謝のお言葉を頂いたときは、やりがいを感じます。「わからない」が「わかる」という初心を忘れずに、これからもお客様の立場に立った説明を心掛けていきたいと思っています。

〇 やっているのは、こんな仕事 〇

はじめての接点だからこそ、親しみやすく、わかりやすく。

火災共済の申込書の入力やチェック、電話での問い合わせ対応を行っています。私たちの業務は言わば、お客様と広島県共済のはじめの接点。私たちにとって日常のことでも、お客様にとってははじめてのことばかりかもしれません。顔が見えない電話対応だからこそ、お客様のことを第一に考え、対応する。この気持ちを胸に、これからも街を盛り上げている中小企業の方々が安心して事業が行えるよう支えていきたいと思っています。

🕒 俵さんのある1日のスケジュール

- 8:25 **出社**
メールをチェックし、1日の仕事の準備を行います。
- 8:45 **朝礼**
各部署から発信される情報を共有し、業務に活かします。
- 9:00 **申込書のチェック・入力**
毎日提出されてくる日報のチェックを行います。
- 12:00 **昼食**
家から持ってきた手作りのお弁当でランチタイム。
- 14:20 **申込書回収**
自転車で代理所等を訪問。申込書の回収を行います。
- 15:00 **書類発送準備**
お客様、代理所への案内の発送準備をします。
- 17:00 **退社**
退社後はたまに買い物をしたり、友達とご飯に行ったりします。



📖 TOPICS

西日本豪雨災害のときには、ボランティア活動も。

記憶にも新しい西日本豪雨災害。広島県も大きな被害を受けました。私たちはご契約者の被災状況をいち早く調査し、共済手続きをいち早く進める一方、多くの社員が自主的にボランティアに参加するなど、復興を後押し。広島で生まれ育った共済組合として何ができるか。その思いが、私たちの原動力です。

災害で事業再開の目処が立たない。そんな人を支えるために、迅速に現場に赴き、被災状況の確認作業を行い、共済金の査定・支払いをする。それが私の仕事です。災害に見舞われた直後の契約者は大きな不安を抱えています。西日本豪雨災害の時も、大変な混乱状態でした。まず落ち着いていただくために、訪問し、安心していただく。あえて一度に情報を伝えず、何度か訪問を繰り返す中で、徐々に共済金請求の手続きについて具体的な情報を発信していきました。「宮家さんが来てくれてよかった」と言っていたように、今後も、広島市の街のセーフティネットとして、被災者の立場に立った対応を心掛けたいと思います。

〇 やっているのは、こんな仕事 〇

契約者の被災から立ち直る姿に、共済の責任と役割を実感。

商店街の1ブロックがほぼ全焼するという火災現場を担当したことがあります。被害の大きさに驚きましたが、迅速に共済金の支払いを行えたことで、契約者の被災から立ち直る姿を間近で見ることができ、お役に立てたと実感できた瞬間でした。身につけた専門知識をもとに現場に駆けつけ、各分野の専門家と協力しながら被災者をサポートする、使命感に溢れる仕事です。

🕒 宮家さんのある1日のスケジュール

- 6:30 **起床**
朝食を済ませ、職場へ向かいます。
- 8:00 **出社**
1日のスケジュールを確認。ネット上の社内掲示板もチェックします。
- 8:45 **朝礼**
現場訪問に関する資料の確認を行います。
- 9:30 **被害現場訪問**
現場撮影や共済金請求に関する補償内容や手続きの説明をします。
- 14:30 **帰社**
被災現場の写真整理、報告書の作成、支払計算などを行います。
- 17:00 **退社**
家族が待つ自宅へ。ときには夕食のカレーを作ることもあります。

わたしがツクル、ミライ

「来てくれてよかった」その思いに応えるセーフティネットに。

補償部 補償課 宮家 洋平



私の所属する業務企画課は新制度(商品)の開発や既存制度の改善をはじめ、ポスターやパンフレット等の企画・作成などを行っています。特に新制度作りにおいては、共済制度推進の傍らで集めた現場の声を基に、代理所である商工会議所や商工会、各種組合の意見を聞きながら現場のニーズに合った共済制度を作ります。当組合の共済制度はこうした地道な活動の結果出来上がります。新しいことをカタチにすることは容易ではありませんが、完成し、世に出て実際に中小企業者のお役に立てる時のことを思うと、苦労も吹き飛びます。自分のため、そして地域のために一緒に考え、挑戦しましょう!

〇 やっているのは、こんな仕事 〇

多方面のデータ収集・分析から
市場ニーズに合う共済を考え、育てる。

データや統計資料を収集・分析し、現状の共済制度をさらに良いものにしていけるよう検討を重ねます。現場のニーズに基づき生み出した制度は、発売後の推移を継続的に追うことで新たなヒントを提供してくれます。この貴重なデータが制度の改善点や新たな制度の開発につながり、当組合の「形の無いモノづくり」に繋がります。

🕒 西村さんのある1日のスケジュール

- 8:20 **出勤**
メールチェックを行い、1日の業務内容を確認します。
- 8:45 **朝礼**
共済推進部・補償部・業務部の朝礼を行い、連絡事項を共有します。
- 9:00 **業務企画課ミーティング**
課内メンバーの1日の業務内容を確認、業務バランスを調整します。
- 9:30 **会議**
長く検討してきた仕事をプレゼンする 때가最も緊張します。会議資料も入念にチェック。
- 12:00 **昼食**
たまにみんなで出前をとるのが楽しみで、大好きなお好み焼きを注文することも。
- 13:00 **資料作成**
データ分析・資料作成・修正指示。課内メンバーの相談にもなります。
- 18:30 **退社**
帰宅後は動物の動画を見て、1日の疲れを癒やしています。

〇 やっているのは、こんな仕事 〇

より成長できる自分を目指して。
形の無いモノづくりで、地域に貢献。

業務部 業務企画課 西村 智恵

〇 やっているのは、こんな仕事 〇

仕事と家庭。どちらかを選ばず、
両方とも頑張れる環境が魅力。

共済推進部 東部営業所 小幡 汐里

現在は東部営業所で共済の推進活動を行っています。夫が福山勤務であったため、広島勤務だった私は結婚を機に退職することを考えていました。迷っている私に、上司から「福山での勤務という選択肢もあるよ」というお話を頂き、その言葉に後押しされて結婚後も継続して働くことを決心。今は仕事に家事に、毎日奮闘しています。比較的、定時に終わることが多いので、帰りにスーパーに寄ることもでき、助かっています。これからも生まれ育った広島のために、働き続けたいと思っています。

〇 やっているのは、こんな仕事 〇

一人ひとりのお客様と顔をあわせながら
お声がけをする活動が中心。

福山を拠点とした共済の推進活動と事務業務が主な仕事です。今は対面でやりとりをしているのですが、以前所属していた業務部で「電話の向こうのお客様」を想像しながら臨機応変に対応していた経験が役立っています。お客様が何を求め、何に困っていらっしゃるのか。表情を見ながら読み取り、最適なご提案が行えるように心掛けています。

🕒 小幡さんのある1日のスケジュール

- 8:20 **出勤**
コーヒーを入れて一息した後机をふき、1日がスタート。
- 8:45 **朝礼・営業会議**
朝礼では連絡事項を、営業会議では実績と予定を共有します。
- 9:15 **デスクワーク**
申込書のチェックや電話対応、郵送物のセットを行います。
- 12:00 **昼食**
近くにあるコンビニなどで購入し、ランチタイムです。
- 13:00 **営業訪問**
担当するお客様を訪問。ためになるお話を聞くこともできます。
- 16:30 **帰社**
お客様への見積書の作成や日報の作成を行います。
- 17:00 **退社**

ワタシがエガク、ミライ

縁の下の力持ちとしての
地域や中小企業者の

組合創業時の昭和30年代は、原爆の被害によって75年間は草木も生えないと言われ荒廃した広島の地に遅い先人たちが立ち上がり、多くの事業所が生まれてきた時代でした。しかし、これらの事業所の多くはバラック建ての小さな作業場や工場、軒(のき)を寄せ合うように密集し、一度火災が起きると近隣まで巻き込んだ大火になることがしばしばありました。この時代、火災は中小企業者の事業の存亡に関わる大問題でした。

そのような中、広島県共済は、地域における中小零細事業者の経営を守るため、安い掛金で火災共済を提供する組合として重宝されていました。その後取り扱い種目も人のケガや病気を保障する生命傷害などに広がり、地域の中小企業者の皆さんの応援を得て、全国トップクラスの規模に成長しました。今では広島県における中小企業者の万一の際のセーフティネットとして大いに期待される存在となっています。そんな私たちが目指すところは、地元広島に根付く共済組合として、加入者との信頼関係を築き、さらにその声を吸い上げ、現場の中小企業者の声を反映した共済制度づくりを行うという、大手保険会社にはマネのできない取り組みを通じ、地域に貢献することです。「モノづくり広島」の系譜を受け継ぎ、「形の無いモノづくり」に私たちは日々取り組んでいます。

また、当組合では補償業務だけでなく、優待割引「エルフル」を通じて、地域と組合員をつなぎ、休日に家族で地域を巡ることで楽しい時間を共有し、明日への労働意欲を高めていただくことを目的とした福利厚生サービスも提供しています。地域の中小企業者が万一の際に対し、備えをすること。そして家族・従業員との絆を深め、明日への活力を見出してもらうこと。広島県共済の使命は、活気あふれる中小企業者を支え、地域を支える縁の下の力持ちになることです。

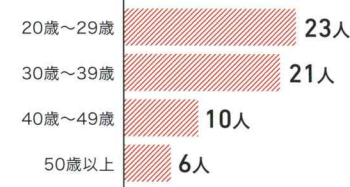
地域創生や働き方改革が推進され、今まで以上に積極的な地域づくり、働き方の見直し求められる時代になりました。これから社会に出て活躍する未来を描く皆さん、当組合で地域を知り、そこに息づく人や企業に出会い、「形の無いモノづくり」を通して自分が愛する広島の盛り上げにひと役買ってみませんか。ぜひ、一緒に働きましょう。

理事長 林 恵介



年齢内訳+平均年齢

35.2歳



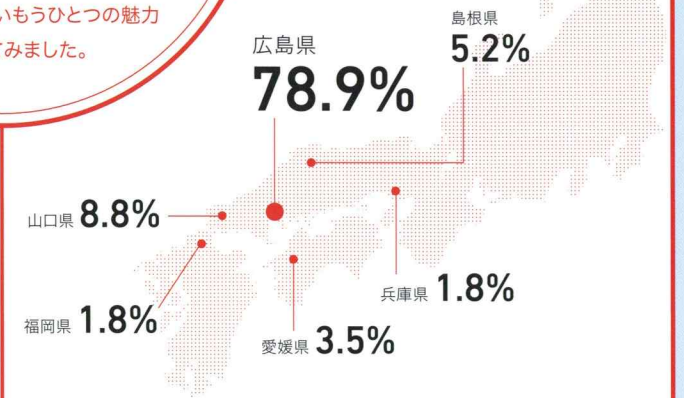
男女比率

26人 34人

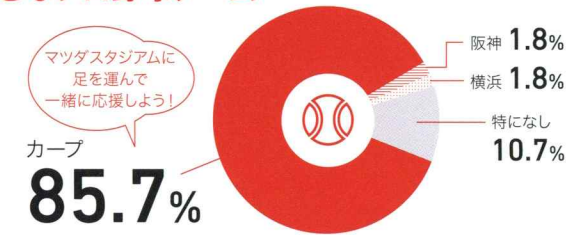
数字でわかる
広島県共済

通勤手段から好きな野球チームまで。
アンケートをもとに広島県共済で働く先輩の
ライフスタイルを大公開。
ふだんは見えないもうひとつの魅力
に迫ってみました。

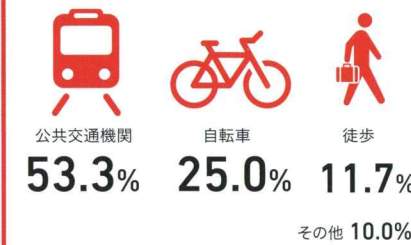
出身地



好きなプロ野球チーム



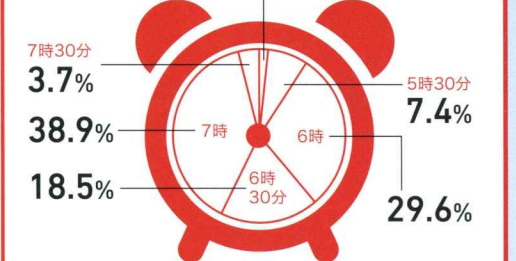
通勤手段



通勤時間



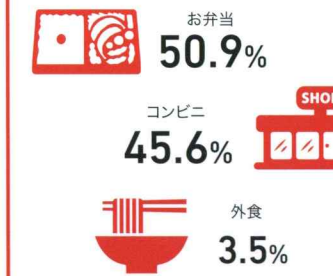
起床時間



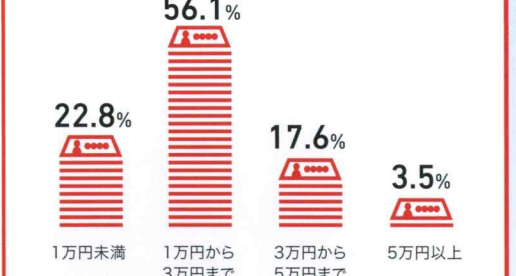
学生時代のクラブ活動



ランチはどうしてる?



1か月で趣味に使うお金



福利厚生・レクリエーション

長く、安心して働くことができるように。仕事のやりがいや職場の雰囲気はもちろんのこと、教育や福利厚生も充実。結婚、出産、育児などそれぞれのライフイベントにしっかり備えられる制度や、レクリエーションの実施など、信頼を深め、風通しの良い職場環境を実現しています。

- 各種保険(健康、厚生年金、雇用、労災) ● 健康診断(人間ドックなど)
- 退職金制度 ● 財形貯蓄制度 ● 慶弔見舞金(慶祝金、弔慰金、見舞金)
- レクリエーション ● 産前・産後休業、育児・介護休業、育児・介護短時間勤務
- 通信教育/資格取得支援補助 ● 永年勤続表彰制度



組合概要

- 名称 広島県中小企業共済協同組合
 - 所在地【本部】広島市中区竹屋町4-17 県火災ビル
【東部営業所】福山市西町2-10-1 福山商工会議所ビル7階
 - 設立 昭和30(1955)年11月18日
 - 準拠法 中小企業等協同組合法
 - 出資金 560百万円
 - 組合員 94,712名
 - 総代 120名
 - 理事長 林 恵介
 - 理事 12名
 - 監事 3名
 - 職員 60名(※)
 - 代理所 245代理所
- 平成31年3月末現在(※印は令和元年10月現在)

ACCESS



市内電車

- 電停「市役所前」から徒歩8分 ●電停「鷹野橋」から徒歩8分 ●電停「日赤病院前」から徒歩7分

広島バス

- 【26号線】「広島駅」21番のりば～「保健所前」下車 徒歩8分
- 【50号線】「広島駅」6番のりば～「竹屋町西」下車 徒歩3分



(広島県認可) 広島県中小企業共済共同組合

〒730-0048 広島市中区竹屋町4-17
<https://www.kyosai.or.jp/recruiting/>